



ンが 2002 年に立てられたものの、計画は実施されていない。今回の本散歩道整備計画では道路排水計画については、このマスタープランを基として検討する。なお、汚水については本計画の対象外として考慮を行わない。

- 現状の排水管路は長年の管理不在のため、泥土が堆積し排水能力が極端に低下しており、維持管理の実施が望まれる。図-5.3.6は散歩道計画地区における下水排水系統図を示す。

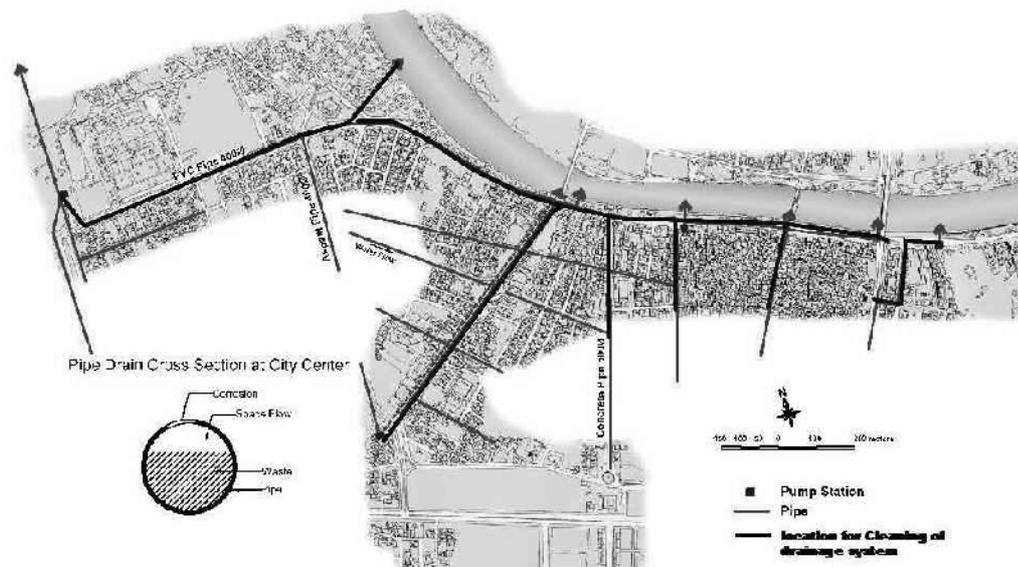


図-5.3.6 散歩道沿線の下水排水系統図

- サマーワ散歩道計画の街路整備計画では、先行して、マスタープランを考慮した排水系統の整備を行う前提で道路・歩道の舗装、街路灯、植栽等の整備が可能となる。

#### (4) 車道部の状況

- 舗装劣化のため、車両の安全走行に支障をきたしている。
- 歩車道境界縁石や中央分離帯の縁石の劣化のため、美観が損なわれると共に、車両の走行幅員を狭めている。
- 車両と歩行者の分離機能と歩行者の交通意識が十分でないため、安全交通に支障をきたしている。

#### (5) 歩道部の状況

- 歩道舗装の劣化、未整備、裸地、水溜まり状態により、歩行者空間と車両走行空間の混在状態が部分的に発生し交通安全に支障をきたしている。
- 歩車境界の縁石が損傷劣化していて歩道部の舗装見切り部が不揃いとなっている。

## (6) ごみ処理計画等

- サマーワ市では所定のゴミ箱に生活ゴミをまとめ棄てることでサマーワ市がゴミを回収することになっているが、ゴミ箱利用方法が市民に十分に認識されておらずゴミ箱の周辺にゴミが投棄されている。また、ゴミ箱は大きさ形状が一定でなく、その数・容量共に十分でない。
- サマーワ市では、回収後のごみ処理のため市南部に約 16 ha の土地を確保し、野積みとしている。この処理場ではゴミを集積するのみで、焼却はしていない。
- サマーワ市のゴミ発生量は1日当たり約 275 トンに達していると想定される。(対象人口 25 万人、1.1 kg/日/人の想定による。)
- サマーワ市はゴミ収集機材（ゴミ収集車、ゴミ用コンテナ等）をほとんど所有しておらず、ゴミ処理機能が著しく低く、市内にはゴミが散乱し都市美観、都市衛生環境面から著しい問題となっている。
- 調査対象路線では、ゴミ箱が不足している。現状のゴミ箱設置個数は電柱に取り付けたゴミ缶が 17 個、中型ゴミ箱 9 箇所、大型ゴミコンテナ 2 箇所である。既存のゴミ箱の設置場所を図-5.3.7 に示す。サマーワ市のゴミ処理場の位置を図-5.3.8 に示す。



図-5.3.7 散歩道沿線のゴミ箱配置現況図

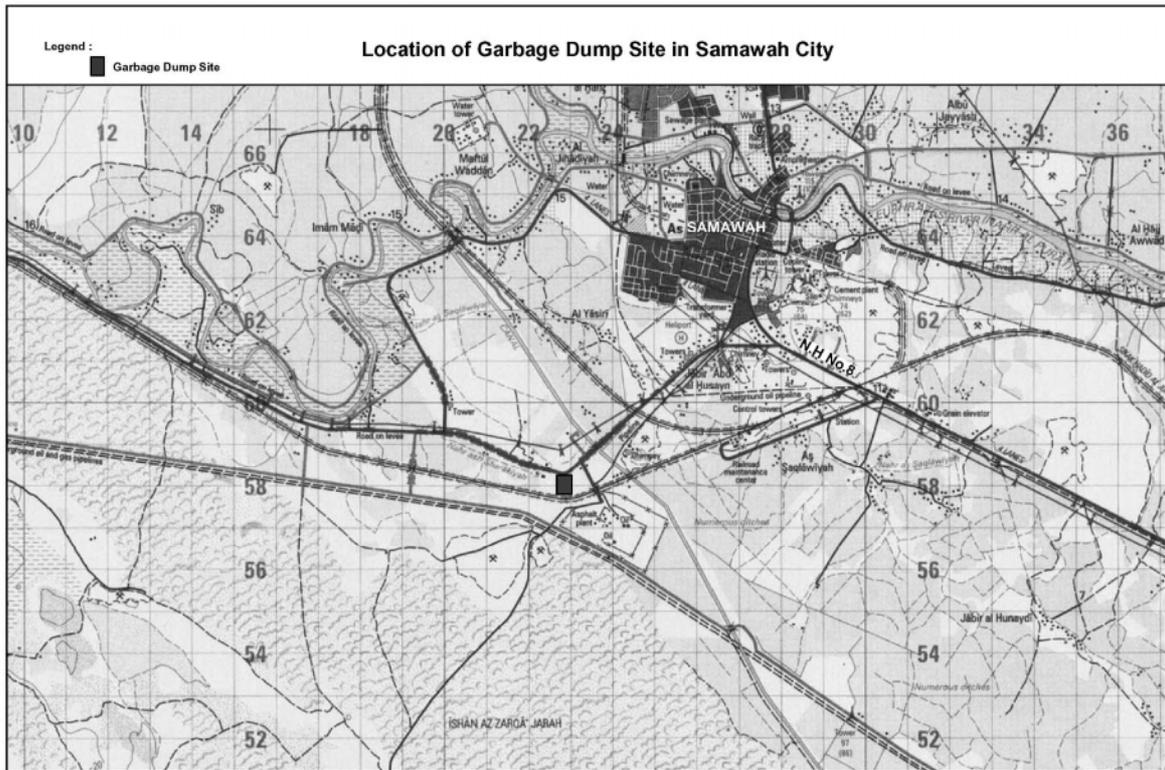


図-5.3.8 サマーワ市のゴミ処理場位置図

(7) 公園計画、文化スポーツ振興計画等

- 公園、緑地、スポーツ、リクレーション施設配置を市民政局の関係機関ヒアリングを行い現地踏査を通じた調査により、配置図を作成した。
- 市民の最大のリクレーションはサッカー競技であるものの、具体的な文化スポーツ振興計画は予算不足のため行われていない。サマーワ市の公園緑地、スポーツ、リクレーション施設等の配置系統を図-5.3.9 に示す。

## PARK AND SPORTS FACILITY OF SAMAWAH AREA



図-5.3.9 サマーワ市の公園緑地、スポーツ、リクレーション施設配置図

### (8) 街灯整備計画に必要な電力供給計画と現状

- サマーワの電力需要は現時点で約 200MW（ピークは夜間）であり、イラク南部 400KV 送電線より約 100MW の給電を受けているものの、恒常的な停電に悩まされている。なお、サマーワでは、旧 CPA による 40MW ガスタービン発電所の整備が進められており、わが国無償資金協力により 60MW の容量を持つ発電所整備構想がある。

- わが国の草の根無償資金協力による小型ディーゼル発電機(750KW)を 4~5 基を国道 8 号線サマーワ橋右岸部の南詰め公共空地に設置する計画が進められている。
- 歩道に照明灯がないため、夜間の歩道空間の安全性、快適性を確保されていない。
- 河岸通りの商業地はアーケード式の建築となっているが、街路照明がない。このため夜間の安全性、快適性が確保されていない。
- 街路灯は公共施設として重要であり、電力供給事情が悪くともサマーワ市では街路灯には優先的に電力を供給する予定である。図-5.3.10 は散歩道沿線の現況道路照明系統の配置状況を示す。

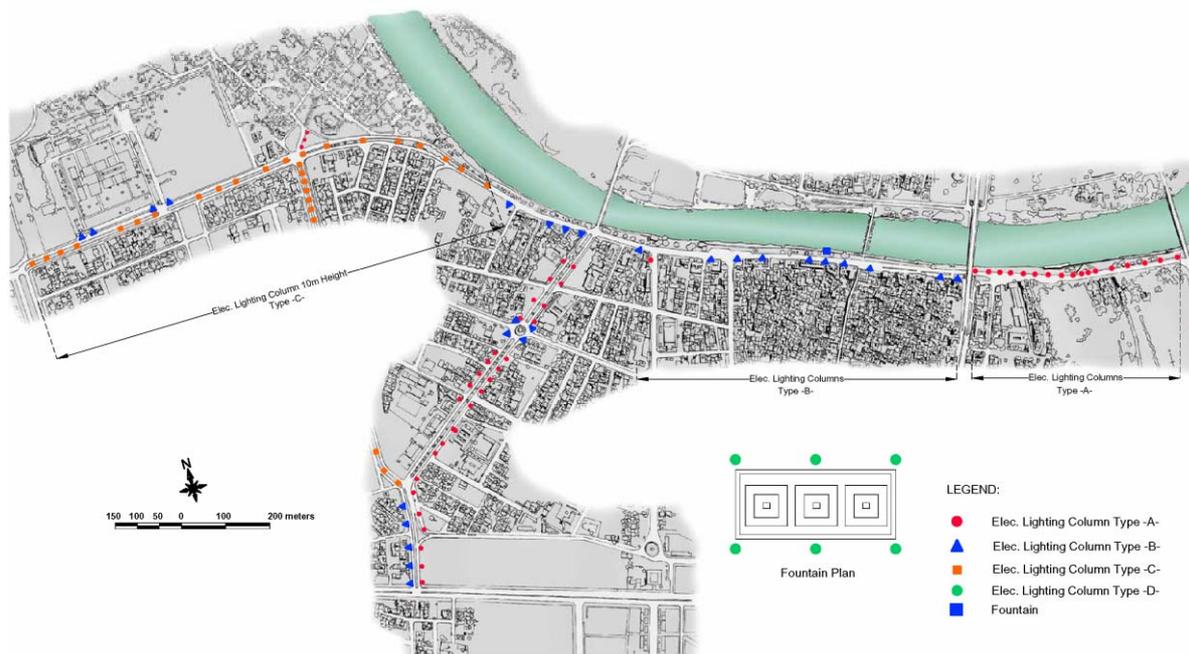


図-5.3.10 散歩道沿線の道路照明系統配置図

#### (9) 植栽、植樹整備

- 既存街路樹の樹種は極めて少なくモクマオウ (*Casuarina sp.*) やナツメヤシ (*Phenix dactelifera*)、ナツメ (*Zizyphus vulgaris*) 等、歴史的に昔から地域で生息している樹種が大半を占めている。図-5.3.11 ~図-5.3.13 は現況の街路樹の植栽状況を位置、数量を示す。街路樹の現状から次の事項が判明できる。
- 街路樹の配置の均等性に無く、不揃いである。このため街路の景観形成が十分で無い。
- 日中の日陰を構成する街路樹(カヌーピー形状)の植栽が少ない。
- 街路樹の彩り、花木の要素が極めて少ない現状であり、植栽の多彩な自然要素が少ない。